

地域に学び地域に親しみ、地域を愛する酒生っ子の育成

福井市酒生幼小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
中学校区を単位とした協議会	30回
地域及び家庭への学校公開	30回

(2) 地域人材の活用（のべ人数）

講師・ゲストティーチャー	
授業ボランティア（含：低ボラ）	178人
登下校支援ボランティア	2000人
その他（ ）	
	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

本校は校区内に豊かな水田が広がっており、農業の児童も多い。しかし、農業も機械化がすすみ、子供が田畑に出て作業を手伝うことは少なくなってきている。田植えや稲刈りなどを昔ながらの手作業で体験させ、稲作の重要性やお米の大切さを継承していくことは、故郷を知ることになる。地域の中には祖父や祖母の思いを児童に伝えたいという思いも強い。そこで数年前から、学校の南側に田圃を2反を貸していただき、田植えから収穫までを児童と地域の方々と一緒になって行っている行事が行われている。収穫された米はもち米とあわせ、餅つきを行い、全校で感謝祭を行っている。

本年度の実施の様子

5月19日 田植え

- ・水はり、しろかきは事前に農協の壮青年部の方実施済み
- ・児童は田に入り、苗の束を受取り手植えをする。

6・7・8・9月

- ・田んぼの草取りや肥料をまいてくださる。
- ・児童は稲の観察を継続して行う。

10月6日 稲刈り

- ・稲刈りの仕方を習い、数束ずつ鎌で刈り稲束をつくる。
- ・残りはコンバインで刈りとってくださる。児童は見学する。

10月21日 もみすり体験

- ・地域の農家におじゃまして、もみすりをする。その後機械で実施して昔と今の作業の違いを学習する。

11月15日 収穫感謝祭

- ・前日に米を洗いつけおきしておき、せいろや窯、きねやうすを準備してくださる。
- ・当日約30人の地域の方がお手伝いに来てくださり、餅つきをする。きなこ餅、あずき餅などにする。
- ・今までのお世話に対し、児童は感謝の気持ちをこめてお礼を述べる。



成果と課題

米作りを通して、地域の方が学校に来てくださることが多く、学校と地域がとても親密になってきている。祖父母の年代の方が多く、知識が豊かで多くを学ぶことができた。また餅を楽しむにしている方もおり、楽しい行事になっている。

米の収穫の時期には校外学習や研究会など学校の行事が多く、日程がとりにくい。